令和４年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価および今後の課題と改善策
1	指導の個別化と学習の個性化により基礎・基本の定着を図るとともに、授業のユニバーサル化を推進することで、主体的に学習しようとする態度を育む。	①	視覚化・焦点化・共有化などのユニバーサルデザイン化の観点を意識した授業を行う。	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザインを意識した授業の展開ができている・ほぼできている」教職員の割合が、 A　１００％　　である B　　８７％ 以上である C　　７５％ 以上である D　　７５％ 未満である	ＧＩＧＡ校内研修が進むにつれ、ユニバーサルデザインフォントを使用した教材が生徒の理解を助けるとの共通理解が進み、各教員が工夫を凝らした教材作成にあたった。 教員対象の自己評価アンケートでは、「授業の展開ができた」が３８％、「まあまあできた」が６２％で、全ての教員が実践できている。生徒への授業評価アンケート結果からも、「わかりやすい」９０％、「スライドなどが参考になる」８８％という評価を得た。今後も研修を重ね、わかりやすい授業となるよう努める必要がある。 評価　A
		②	ＩＣＴ機器の効果的な活用や協働を促す授業を行う。	教務課 各教科	「主体的に授業に参加できている・ほぼできている」生徒の割合が A　　８５％ 以上である B　　６５％ 以上である C　　５０％ 以上である D　　５０％ 未満である	生徒による授業評価アンケートでは、「授業に意欲的に参加している」との回答が８５％であった。ＩＣＴ機器の活用が特別なものではなく、日常的な授業風景となりつつある。「基本的学習態度ができている」と回答した生徒も８３％おり、今後は、一人一台端末のさらなる有効活用を研究していく必要がある。 評価　A
2	学校生活全般を通して社会で必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中での役割を担うことで自己肯定感を高める。	①	各種教室(非行防止教室、防犯教室など)の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生　徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている・ほぼ守っている」生徒の割合が A　　９５％ 以上である B　　８５％ 以上である C　　７５％ 以上である D　　７５％ 未満である	生徒による前期学校生活における調査では「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と答えた生徒は５４％（昨年度５９％）、「ほぼ守っている」と答えた生徒が４６％（昨年度４１％）であった。 ルールやマナーを守ることの大切さについては、集会や各種教室をとおして継続的に指導し、生徒会活動やＬＨ等において生徒が自ら考える機会を増やしていく。 評価　A
		②	学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生　徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A　　９０％ 以上である B　　８０％ 以上である C　　７０％ 以上である D　　７０％ 未満である	生徒による前期学校生活における調査では「自分の役割を果たした」と答えた生徒は５４％（昨年度４１％）、「ほぼ果たした」と答えた生徒は４２％（昨年４１％）であった。 １名の生徒が「自分は何もできなかった」と答えており、学校祭、青春のこだまや球技大会などの学校行事において、「振り返りシート」を記入することで、自らを振り返り自己肯定感を高める取組を進める必要がある。 評価　A
		③	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生　徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をとおして、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている・ほぼ上げている」教員の割合が A　１００％　　である B　　８７％ 以上である C　　７５％ 以上である D　　７５％ 未満である	教員対象の自己評価アンケートで、いじめを未然防止する取組が「十分成果をあげている」と回答した教員が３８％で、「まあまあ成果を上げている」が６２％であった。 友人とのつきあい方等を相談する生徒はいるが、生徒からのいじめの訴えや報告はない。毎日の教員間での情報交換会、生徒への声かけ、随時の生徒面談などを通して、いじめの未然防止・早期発見に継続的に取り組む。人権週間等を活用し、「いじめ」「偏見」「差別」の問題に対して生徒自らが考える機会を増やす。 評価　A

重点目標		具体的取組		主担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価および今後の課題と改善策
3	キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路実現のための指導の充実を図る。	①	進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進　路 指導課	「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を持つことができた・ほぼできた」生徒の割合が A　　８５％ 以上である B　　６５％ 以上である C　　５０％ 以上である D　　５０％ 未満である	７月に金沢中央高校で行われた「定時制・通信制高校生を対象とした企業ガイダンス」に参加したり、「いしかわ企業人インタビューＤＶＤ」を用いて学習したりした。事後アンケートで「勤労観・職業観を持つことができた」と答えた生徒が４８％、「ややできた」が４０％であった。「知らなかった企業のことを知ることができた」「働くことのイメージを持つことができた」「将来に向けて視野が広まった」などの前向きな感想があった。 今年度、アルバイトをしている生徒は１６名（全体の５２％）と増加している。（昨年度９名、５０％） 生徒の悩みに色々と相談に乗りながら、学業と両立しアルバイトを継続するよう励ましている。今後さらに勤労観・職業観を育むために、進路講話や個人面談等を通して就業に向けての意識を高めていきたい。 評価　A
		②	教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、インターンシップ・企業見学等の受入を依頼する。	総務課	「インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が」 A　１２社 以上である B　１０社 以上である C　　８社 以上である D　　８社 未満である	本校教育振興会の会員企業に、インターンシップ・企業見学の受け入れを依頼したところ、１５の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。昨年と比較すると４企業増で、コロナ禍の中ではあるが多くの企業に協力をいただくことができた。夏休み前に１年生を対象に「インターンシップ希望調査」を行ったが、アルバイトをしている生徒が多く、インターンシップ希望者はいなかった。今後も進路指導課と連携し、生徒の進路意識向上のための支援を続けていきたい。 評価　A
4	家庭や地域と連携した健康教育を推進し、健康安全指導の充実を図る。	① ②	計画的に健康安全指導の充実を図る。 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	保　健 厚生課 各担任	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ・ほぼ役に立つ」と思う生徒の割合が A　　９０％ 以上である B　　８０％ 以上である C　　７０％ 以上である D　　７０％ 未満である	７月に管理栄養士と連携して食育教室を開催し、夏の食事の注意点について指導した。事後のアンケートの結果、受講者全員が「講演会はよかった・ややよかった」と回答し、９５％の生徒が「学んだことが今後役に立つ・やや役に立つ」と回答した。生徒は自分の食生活を振り返り、バランスのとれた食事の重要性を学ぶことができた。 後期には、学校歯科医と連携した食育教室を開催し、引き続き食生活を改善しようとする意識を高める。 評価　A
5	ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	① ②	書類・データ等の整理整頓を行うと共に、重要度と緊急性の観点から優先順位を決める。 お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。	全教職員	「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた」教職員の割合が A　１００％　　である B　　８７％ 以上である C　　７５％ 以上である D　　７５％ 未満である	教員８名を対象に、お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうかを聞いた結果、「よくできた」と回答した教員が３８％（昨年度５７％）、「まあまあできた」と回答した教員が６２％（昨年度４３％）であった。 今後さらにＩＣＴ等を活用して事務的作業の効率化を図り、自らの業務に対して改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。 また、一時的に他の教員をサポートしたり、業務内容を分担したりするなどして、業務の平準化を図る。 評価　A